

# SEEDS

 知床財団  
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

No.227  
2015 / 夏号

自然特集

## 知床の虫さがし

活動レポート

## 羅臼の知床キッズ



知床世界遺産10周年特別インタビュー  
辻中義一さん

スタッフの本棚 第17回  
武満徹 エッセイ選—言葉の海へ—

知床財団購買部  
切手づくりました

知床財団この一品 第6回  
夏空の下を走るソリ



夏のキャンプ中の  
火おこし体験の様子

2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月
オジロ・オオワシ観察の巻	餅つき交流会 (こまぐさ学級と交流)	遺跡学習＆もの作りの巻	羅臼湖トレッキングの巻	移動水族館見学の巻	コケ観察とテラリウム作りの巻	体験キャンプの巻	チャシコツ崎で磯観察の巻	知床岬クリーン作戦の巻	鯨＆海鳥ウォッチングの巻	知床岬クリーン作戦の巻 (交流事業)	夏のキャンプ中の火おこし体験の様子

※こまぐさ学級とは、羅臼町の60歳以上の方を対象にした高齢者学習事業のこと。

## 知床キッズの1年(2011-15年)

知床キッズは、年10回活動しています。毎年ちょっとずつ違ったプログラムを取り入れています。



### ①いざ知床岬へ

船で知床岬を目指す。…はずでしたが、この日はあいにくの時化。相泊から先、知床岬までの海はどう

ラムに取り組んでいます。

### 「知床岬クリーン作戦」

知床岬は海に突き出た岬だけに、

漂着ゴミなどが人知れずたまる場所もあります。知床キッズでは

ここ数年、波に寄せられた知床岬

の漂着ゴミを拾って世界遺産知床

をキレイにしようと、このプログ

ラムに取り組んでいます。



歩き始める前の「青空学習」



ても船で行ける状況ではないため、相泊から北に数キロ、昆布番屋が立ち並んでいる海岸線をみんなでトレッキングしながらゴミ拾いをすることになりました。羅臼の子供たちは、親が昆布漁師の子もいて、浜歩きは慣れたもの?一方、ウトロの子供たちは、ゴロゴロ転がる石の上を必死に歩きます。

### ②ゴミ拾いました

ゴロゴロした石浜は足元をとら

れて歩きづらいですが、キッズの

子も愛護の子も、一生懸命歩きました。

がら、ゴミ拾いをしてきました。



# 羅臼の知床キッズ

文 - 山本幸 普及・情報係長

羅

臼には、知床キッズという子供たちのふるさと体験教室があります。

活動中の子供たちの元気いっぱいな様子とともに、その内容をご紹介します。

知床自然愛護少年団とは?

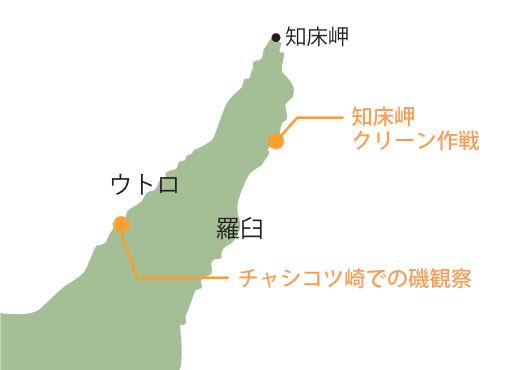
35年前、当時の羅臼ビジターセンターと公民館のスタッフが「羅臼の子供たちに地元の自然や文化を体験してもらいたい」と、夏休みに始めた「子ども教室」が前身です。それから何度も名前を変えつつ、今まで続してきた息の長い羅臼の事業、それが知床キッズです。それから何度か名前を変えつつ、今まで続してきた息の長い羅臼の事業、それが知床キッズです。現在は、羅臼町公民館、環境省、そして私たち知床財団の3者主催で、小学校4～6年生を対象に実施しています。

1年を通して様々な活動をする知床キッズですが、今はその中でも昨年度から始まつた、ウトロの知床自然愛護少年団(※)との交流事業に着目しました。

同じ知床半島に暮らす子供たちですが、普段はなかなか一緒に遊んだり、交流したりする場はありません。そして同じ半島でいるながら育つ環境も実は意外と違い、それゆえ活動の合間に見せる表情や行動にも違いがあります。

斜里町ウトロ地区の小学3年から中学3年までを対象にした地域の子供教育事業。地元の親たちがスタッフとなつて運営している。昭和46年から続いている歴史ある少年団。年に10回程度の活動を行い、現存する開拓時代の小屋を使って冬のキャンプなども体験させて

いる。



知床はどこでもヒグマの生息地。特にこれから歩く場所は人気もなく、いつどこからクマが出てきてもおかしくありません。歩き始めると前に茂木リーダーからしつかりレクチャーを受けます。

### ③羅臼港までは船で

せつからく愛護少年団がわざわざ羅臼までやつてきてくれた交流の場です。羅臼の港までは、船でのんびり帰りながらホエールウォッチング。ちょっと波がありますが、慎重に羅臼港を目指します。

⑤最後は、みんなでお昼ごはん浜を歩いて、「ゴミ」も拾って、シャモを見たら、ようやくお昼ごはんです。ランチタイムには、知床キッズから愛護少年団へ、羅臼昆布についての解説付き。



### 交流事業 in ウトロ 「チャシコツ崎で磯観察の巻」

#### ①団長からひとこと

普段は獲つてはいけない海の生き物も、今日だけ、ここだけ、特別に獲つてもいい許可をもらいました。みなさん、存分に観察しましょう。それからここはごつごつした岩だけの場所です。ちょっと転んだだけでも、大けがをするかも知れません。行動するときは十分に注意してくださいね！」



### ②観察前の準備

観察会に入る前に、お昼に使うマキをみんなで拾います。燃えやすい木を選ぶのも大切なポイント。

#### ③磯観察開始！

磯にいる生き物をタモでくつて水槽に入れ、じっくり観察します。羅臼とウトロ、混合チームで磯場をうろうろし、最後はみんなでどんな生き物がいたか調べます。



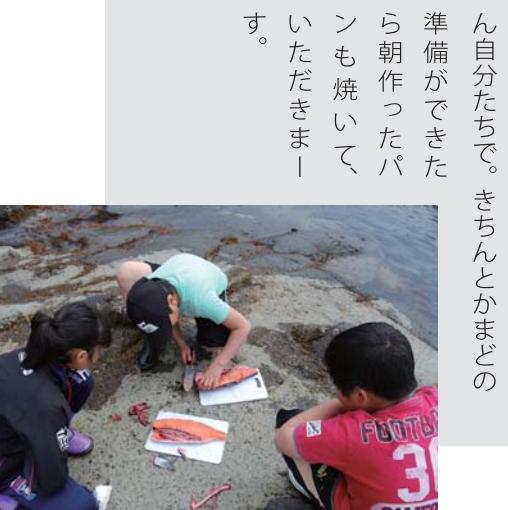
### ④生き物発表タイム

班ごとに捕まえた磯の生き物のお披露目タイムです。海の生き物ならなんでもいいのが愛護少年団流。班に1匹魚が配られ、班のみんなで協力して魚をさばきます。火の番ももちろん自分たちで。きちんと今までの準備ができた朝作ったパンも焼いて、いただきまーす。



#### ⑤昼食

ご飯はタダでは食べれない！というのが愛護少年団流。班に1匹魚が配られ、班のみんなで協力して魚をさばきます。火の番ももちろん自分たちで。きちんと今までの準備ができた朝作ったパンも焼いて、いただきまーす。



### 知床キッズの歴史

#### 知床キッズに託す夢

「青少年教育、なにかやらねば！」  
と話し合いの場がもたれる

「こども教室」  
夏休み期間全4回開催。  
対象は小学5・6年。

「少年体験教室」  
昭和56年

「郷土の自然に親しむつどい」  
昭和57年

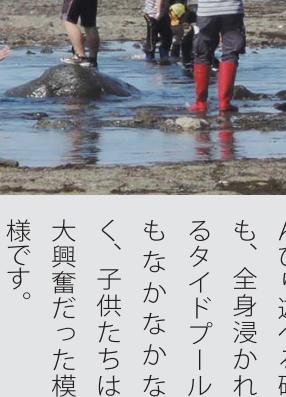
「ひつす少年自然観察会」  
昭和58～59年

「少年自然観察会」  
昭和60年

「羅臼町ふるさと体験教室」  
平成3年～  
平成2年

「羅臼町ふるさと体験教室」  
としで「知床キッズ」が発案される

現在にいたる



しっかりと学んで、お昼の片付けもきちんとしたら後は、自由時間。なんと一羅臼の子供たちは、ところどころにたまっているタイドプールに、一人残らず全身浸かってびしょ濡れです。それを冷静に見守るウトロの子供たち。羅臼にはのんびり遊べる磯も、全身浸かるタイドプールもなかなかなく、子供たちは大興奮だった模様です。



パンを焼いて食べる子供たち

#### ⑥磯で思いっきり遊ぶ

しっかりと学んで、お昼の片付けもきちんとしたら後は、自由時間。なんと一羅臼の子供たちは、ところどころにたまっているタイドプールに、一人残らず全身浸かってびしょ濡れです。それを冷静に見守るウトロの子供たち。羅臼にはのんびり遊べる磯も、全身浸かるタイドプールもなかなかなく、子供たちは大興奮だった模様です。



知床キッズ&知床自然愛護少年団の子どもたち  
(2015年知床岬クリーン作戦)

現在にいたる

また、昨年から始まったウトロの子供たちとの交流も、これから知床キッズの楽しみひとつです。同じ知床に住んでいても、普段はなかなか交流がない羅臼とウトロの子供たち。しかし、知床半島はひとつ、山や海の上に境界線はありません。幼少時代に、一緒になって知床の自然の中で遊び、学んだ子供たちが、将来、羅臼と斜里それぞの町ならではのアイデアを出し合いつながら、知床半島とい

ます。

子供たちは、大人がほんの少しだけ手助けをしたり、ヒントをあげるだけで、その純粹な目と心で様々なものを見つけることができます。そんな子供時代に、ここ知床羅臼の山や海、川にある豊かな自然、そして郷土に根付く文化を肌身で感じ、体験してもらいたい。そして、故郷、羅臼に誇りを持てる大人に育つてほしいと思います。知床キッズの活動が、そのための力に少しでもなるなら、これ以上のお喜びはありません。

子供たちは、大人がほんの少しだけ手助けをしたり、ヒントをあげるだけで、その純粹な目と心で様々なものを見つけることができます。そんな子供時代に、ここ知床羅臼の山や海、川にある豊かな自然、そして郷土に根付く文化を肌身で感じ、体験してもらいたい。そして、故郷、羅臼に誇りを持てる大人に育つてほしいと思います。知床キッズの活動が、そのための力に少しでもなるなら、これ以上の喜びはありません。

35年前から今日にいたるまで続いてきた知床キッズには、設立当時のスタッフの思いや子供たちが歩んできた歴史が刻まれています。その歴史には到底及ばないです、私もこの事業に関わるようになつて6年目にになりました。小さな体に大きな可能性を秘めた知床キッズの子供たちがこれまで接しながら思つたことは、いつの時代も子供たちはきっと変わらないもののな

だ、ということです。変わつてしまふ可能性があるのは、子供をとり巻く社会環境や自然、そして大人の心かもしれません。社会環境や自然の変化は、私たちの力だけでは何ともしがたいですが、せめて知床キッズを育むスタッフが途絶えることなく、これから先も変わらずに、子供たちへ羅臼の自然や文化を伝え続けていけるよう、私たち大人も頑張っていきたいと思います。